

いきもの解説



フシグロセンノウ
 <8月上旬～8月下旬>
 センノウ（中国原産）の仲間で、節が黒いことが名前の由来。朱赤色の5枚の花びらがよく目立ちます。

武



ヘクソカズラ
 <7月下旬～9月上旬>
 草全体に悪臭があることから「屁糞葛（へくそかずら）」という、なんとも可哀想な名前がつけました。花冠のようすを「やいと」（お灸のこと）の跡に見立てて「ヤイトバナ」という別名もあります。

水

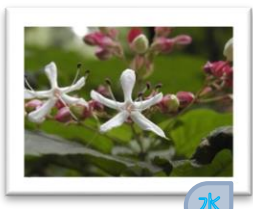


センニンソウ
 <8月中旬～9月中旬>
 実につく毛を仙人のひげに見立てたことが名前の由来。花は暗い夜に見ても花に気づくほど「純白」です。

水



実



クサギ
 <7月下旬～8月中旬>
 木全体、特に葉に臭気があることから臭木（くさぎ）の名前がつけました。一方、花はよい香りで、沢山の虫たちが訪れる「昆虫レストラン」として賑わっています。

水



ナガボノシロワレモコウ
 <8月上旬～10月上旬>
 ワレモコウの仲間で、白色の長い花の穂をつけます。湿地に生育する植物で、園では水生植物園で見られます。花色が赤っぽい**ナガボノアカワレモコウ**や、花色が赤紫色の**ワレモコウ**も、同じく水生植物園で見られます。

水



ナガボノ
アカワレモコウ

ワレモコウ



コバギボウシ
 <7月下旬～9月中旬>
 小葉擬宝珠（こばぎぼうし）は、オオバギボウシに比べて葉が小さいことが名前の由来。擬宝珠（ぎぼうしゅ）とは、橋の欄干につける装飾品のことで、ギボウシの仲間は、これと花の蕾がよく似ています。

水 路



擬宝珠



ツリガネニンジン
 <8月上旬～8月下旬>
 キキョウの仲間です。花が釣鐘形であること、根が太くチョウセンニンジンに似ていることが名前の由来。俗に「トトキ」と呼ばれる山菜で、おひたしや天ぷらなどで食べられます。

武



カワラナデシコ
 <7月中旬～10月上旬>
 単にナデシコの名でよく知られ、秋の七草の一つに数えられます。古くから優美な花が観賞され、「万葉集」にも26首詠まれています。

水

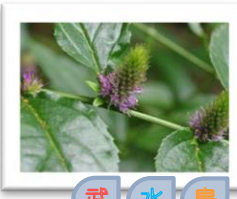


キンミズヒキ
 <7月中旬～9月下旬>
 黄色い小さな花をたくさんつけます。蕾をよく見ると、つけ根からかぎ状の棘が出ています。これにより、実の時期には、動物などに引ついて運ばれます。

武 水 路



花



トラノオズカケ
 <7月下旬～10月中旬>
 本来は、四国や九州に生育する植物。自然教育園のトラノオズカケは、江戸時代に、平賀源内が松平讃岐守の故郷から持ってきたといわれています。

武 水 鳥



ノシラン
 <8月中旬～9月上旬>
 花茎（花だけつける茎）が平らで熨斗（のし）に似ていることから名前がついたと言われています。今咲いている白い花もきれいですが、冬につけるコバルトブルーの実も美しいので、そちらも是非お楽しみに！

武 路 森



キツネノカミソリ
 <7月下旬～8月中旬>
 キツネの出るようなさびしい場所に生え、春に出る細長い葉を日本古来の剃刀（かみそり）に見立てたことが名前の由来とされます。花の時期には葉は枯れておりません。有毒植物です。

路



キツネノカミソリの葉



さがしてみよう～ドングリ落とすの、だあれ？～
 武蔵野植物園の休憩所に、どんぐりのついたコナラの小枝が落ちています。どんぐりはまだ青く未熟で、枝の切り口を見ると、ハサミで切った様にきれいです。
 枝を切ったのは「ハイロチョッキリ」という昆虫。ドングリの中に産卵し、葉の付いた枝ごと切り落とします。ドングリの「帽子（殻斗：かくと）」の部分をよく観察してみましょう。ハイロチョッキリがあけた小さな穴を見つけることができます。